

# 喜び悲しみ一冊に

## お年寄りから人生聞き書き

だれにもあるとっておきの話や冒険談、悲しい思い出、喜び……。お年寄りに自身の人生を語ってもらい、冊子などの形に残す「聞き書き」活動をしているNPO「白十字在宅ボランティアの会」（新宿区）が、23日に入門講座を開く。「語り手は人生の意義をあらためて見だし、聞き手は経験や知恵を知る。ぜひ若い人に参加してほしい」と呼びかけている。

（星野哲）

### あす新宿で入門講座



聞き書きで作った冊子を前にする菅野まさみさんと山越武司さん＝新宿区

## 話者も癒やされ

同会は、在宅のがん患者らを支える「白十字訪問看護ステーション」を母体に発足。07年4月から聞き書き活動を始めた。全国各地に活動が広がっていた09年、理事長の秋山正子さんが聞き書きの「お年寄り」を新聞で知り、秋田県に住む当時91歳の母親の聞き書きを

北海道の団体に依頼したことが一つのきっかけになった。最初に、聞き書き作家の小田豊二さんによる養成講座を開き、受講した中から8人がボランティアとして活動している。これまでに5人の聞き書きを冊子に残した。

お年寄りは、看護師や地域ケアマネジャーから紹介されることが多い。最初には会の事務局が略歴を調べ、ボランティアの人と一緒に outgoing。2回目以降はボランティアが1対1で話を聞く。月に2回くらい、長ければ半年ほど通いつてもあるという。

ボランティアの山越武司さん(77)は、妻を亡くし気落ちしているときに、講座に出会った。「語る側」を模擬体験して、妻との思い出を話す

ことで癒やされた。同じ話でも聞き手によって焦点の当てる書き方が異なる面白さも感じ、ボランティアを始めた。時代背景の下調べや、録音を字に起こす菅野もあるが、冊子になったときの相手の喜ぶ顔が忘れられないという。

NPO「白十字在宅ボランティアの会」

長谷野まさみさん(58)は患者の死に直面する中で、「この世に何かを残すお手伝いができないか」とボランティアに参加した。ただ「聞くだけでも、特に独り暮らしのお年寄りに心ケアになると感じている。

入門講座は23日午後6時半

から「ルーテル市ヶ谷センター」(新宿区市谷砂土原町)で。講師は小田さん。一般千円、学生500円。定員80人。申し込みは「聞き書き講座希望」の旨と氏名、電話番号を明記し、ファクスで白十字在宅ボランティアの会(03・59335・7708)へ。